

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300022
法人名	株式会社 ウェルフェアフォレスト
事業所名	グループホームすだちの里 ユニット名 1丁目
所在地	宮城県仙台市若林区沖野7丁目6-30
自己評価作成日	令和 5年 8月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	令和 5年 10月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

クラスターを経験しているため、柔軟な対応は難しいのが現状だが、昨年同様、感染症予防に努めながら、出来る限りご家族の要望に沿えるよう、随時、本部と会議を行い、対応している。5月より感染レベルが引き下げられた事により、これまで 外出や地域との交流ができない中での、閉塞感を感じないよう出前や散歩、3密を避けた外出、ドライブ、カラオケなど、インドアでの楽しみに力を入れています。又、できることの継続を目標に毎日名前を書くことに取り組んでいます。名前を書ける姿をご家族が見られた際、大変喜んでました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、陸上自衛隊霞日飛行場より南方の、市営バス停「沖野」から徒歩1分の閑静な住宅地にある。法人の介護タクシーや居宅介護支援事業所、訪問看護ステーションが同敷地内にある。地域包括支援センターが月1回開催している「ほのぼの食堂」に、法人の施設の厨房と部屋を提供し地域に貢献している。協力医や訪問看護師との医療連携が整っており、24時間オンコール体制は、入居者や家族の安心に繋がっている。入居者は洗濯物たたみや新聞たたみ、好きな編み物や漢字ドリルをして自分らしい時間を過ごしている。家庭的な雰囲気であつ笑顔が絶えない生活が送れるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) ○	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) ○
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 すだちの里)「ユニット名 1丁目 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1丁目「いつも笑顔で清潔に、目配り、気配り、思いやりを持って接する。・外の空気を沢山吸い季節を感じてもらう」2丁目「季節ごとにレク、食事を楽しみながら笑顔で過ごせる」 毎月の会議で昭和し取り組んでいる	職員目標やユニット毎の理念は、各事務所に掲示している。年度末の職員会議で見直し、次年度のユニット理念を決めている。職員自ら笑顔で接する事で、入居者にも笑顔が増え穏やかに過ごしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過で地域との繋がりは控えていた。施設の一角をほのぼのの食堂として開放し地域に貢献している	町内会に加入し、回覧板で小学校の行事や公民館の情報、町内会の祭り中止等の情報を得ている。地域住民と散歩の途中で挨拶を交わしている。家族や地域の方から野菜の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターに定期的に伺い、電話での相談は可能と伝え、案内している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、書面での報告と電話での要望の聞き取りにしている。	2カ月毎の書面会議が、6月から通常開催となった。メンバーは地域包括職員や町内会長(民生委員兼務)、婦人防火クラブ員、家族である。入居者の様子や行事を報告し、コロナ対応の労いの言葉を貰った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターに定期的に伺い、電話での相談は可能と伝え、案内している。	区役所に、介護保険の更新手続きや区分変更で連絡を取った。市から「スキルアップセミナー」の連絡があった。地域包括職員から空き室の問い合わせがあり、入居に至っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い身体拘束、虐待のないケアに努めている。センサーの使用について議論があり仙台市に問い合わせ具体的な解釈と対応について相談した。	「身体拘束廃止・権利擁護委員会」を毎月の全体会議で開催している。歩行不安定の方へのセンサーの使用は、安全性を重視する為と家族に了承を得ている。入居者の安全・安心を考慮し、拘束にならないケアに取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議毎に、虐待、権利擁護の話し合いを行っている。又、注意喚起も行い、未然に防止できるよう努めている。	声掛けの成功例や失敗例を会議の中で話し合っている。笑顔で接し、強い口調にならないよう心掛け、虐待の無いケアに努めている。管理者は、職員の体調や悩み事等、常に相談出来るような雰囲気作りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修委員会を中心に勉強会を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する際には重要事項説明書、契約書の内容をしっかりと説明している。又、変更があった場合はその都度書面にてお知らせし、必要時には同意書を得ている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍での外出が難しい中、個別での対応にて散歩、ドライブを行った。	来訪時や電話対応時に聞いている。毎月担当職員が、写真や様子を手紙にして送付している。年1回実施している「家族アンケート」に、「面会できない時期に貰う手紙は嬉しい」等の感謝の言葉が多くあった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の個別面談にて意見を聞いている。法人全体の会議にて報告し共有している。	日々話しやすい環境であり、職員会議等でも意見や要望を聞いている。入居者の嚙下状況に適した刻み食等の食事形態変更や電化製品の修理、買い換えに対応した。資格取得費用の援助がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人のスキルアップや実績等を考慮し可能な限り給与条件に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外への研修や法人内研修の参加、促しをしている		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等まだコロナが終息していないが、交流の機会を増やしていく。	拘縮がある方のクッションの当て方やスムーズな体位交換について、訪問看護師に相談し助言を貰った。調剤薬局の薬剤師に、飲みにくい薬の粉碎等を相談し、入居者の服薬に役立てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、入居後1ヶ月毎にそれぞれ要望を聞き取り要望にそったケアを実践している。入居間もない時期は精神面の安定に留意している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にできる限り要望等を聞き取るようにしている。また、入居1か月後にもホームの生活にて要望等の聞き取りを行い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族からの要望や入居後必要と判断される支援については、外部サービスを含め随時検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場であるため、助け合ったり、支えあったりしている。また、共感したり教えたり教わったりし関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限が解除したことで面会も増えてきている。面会以外にもこまめに様子を伝え同じ目線で話し合えるよう気をつけている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	オンライン面会の継続と、面会制限の中で意思疎通ができる環境を整備した。今年4月より面会制限を解除した。	入居者が散歩で行く清涼寺が馴染みの場所である。ユニット間のドアを開放し、入居者が自由に行き来し、お茶を飲んだり、おしゃべりを楽しんでいる。遠方から来訪する娘や孫との関係が継続出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	協力し合っの家事や草むしり、レクにて交流ができています。又、外出等を通じ関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は、ご家族から様子を伺ったり、随時相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	役に立ちたいという入居者の気持ちを大切に、なるべく制限のない環境を整えている。	入居時に家族が提出した「くらしの情報シート」や、職員が日々の会話で聞いた事をケース記録に書き込み共有している。入浴後にビールを飲む事を楽しみにしている方がいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴の聞き取りや書面での情報収集を行っている。また、入居後も暮らしの情報として家族から書面で頂き把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録とは別に、不安定な入居者には24時間シートを活用し気持ちの変動を把握し必要時には支援を行う。また、個々の有する能力を記録し情報共有している		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から意向を聞き取り、また、医療関係者から指示等、気づきシートを踏まえカンファレンスで検討・作成している。状態に変化があった場合はアセスメントしなおし、ケアプランの変更を行う	毎月モニタリングを行い、担当職員から状況の変化や気が付いた事を聞きケアに活かしている。介護計画は、6ヵ月毎に計画作成担当者が作成している。家族や本人の要望で訪問マッサージがプランに取り入れられた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ったケアの実践内容や実践後の本人の様子、いつもと違った様子等を記録している。スタッフは目を通し情報共有している。又、疑問や気づいた点等があった場合は気づきシートへ記入しケアの改善に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取り介護や訪問マッサージ、訪問利用や福祉用具の購入等、状況に応じた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出制限で参加できていない。密にならないように外出などに出かけている。町内会や近所の市民センターで催しがあるか情報は収集している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者に看取り可能な体制をとっている。	全員が協力医の月2回の訪問診療を受けている。夜間や緊急時は協力医と連絡を取り、24時間体制である。訪問看護師が週1回健康管理に来訪する。訪問歯科医は月1回来訪し、治療や口腔ケアを行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師にその都度症状の報告をし指示を受けている。又、今年からは医療連携を図り、毎週木曜日看護師が全入居者の健康管理を職員からの相談も受けている。往診前や往診時にも情報交換をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーにて医療機関へ伝えていく。入院時の様子についても面会等で情報交換を行うようにしている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全入居者及びご家族には、ホームでの対応を説明し、終末期における要望を確認している。状況に応じ、ご家族、主治医、と話し合いを行っている	「重度化及び看取りの指針」を明文化し、入居時に説明し同意を得ている。状況の変化に応じて家族や医師、職員で話し合い意思確認を行っている。年1回看取り研修を行っている。看取り時に居室に家族用ソファを用意し、寄り添う時間の支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルの整備と研修での救命講習参加を今後とも行っていく		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練の実施。今年は避難先を地域に想定しています。地域での避難訓練がある時には参加予定	夜間想定を含む避難訓練を年2回行った。災害時の役割分担が決まっている。備蓄係は備蓄品の整備や定期点検等である。次回推進会議時に避難訓練を行い、メンバーに見守りをお願いする予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報細かく聞き取り配慮している。フロアでの食席にも配慮し孤立しないよう努めている。聞かれたくない会話は場所を変えて話すようにしている。トイレにも過度に付き過ぎないように配慮している。	入居者と同じ目線で接し、不愉快にさせない言葉かけを意識している。失敗があった時は、羞恥心に配慮し、居室やトイレに誘導している。居室に入る時は、ノックや声掛けをしてから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるよう、ご本人に尋ねるようにしている。また、言葉以外の表情や行動からも思いをくみ取れるように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り希望に添える様工夫している。また、無理強いせず本人のペースを大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択が可能な方にはご自身で選んでもらう。難しいかたは、そのひとらしい身だしなみができる様支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状況を見ながら食材切や盛り付け、下膳や食器拭き等個人の能力に合わせて分担して行っている。使い慣れた食器を使ったり、お弁当ではメニューから選んでもらう。	献立と食材は配食業者に頼んでいる。行事食にちらし寿司やにぎり寿司を食べた。皆で餃子やホットケーキを作る時もある。自分が食べたい物をテイクアウトする時がある。食事は職員も一緒に、和やかな雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは栄養士が立てている。また、摂取能力に応じて刻みや、お粥、トロミ付きなどで対応している。水分のが少ない方は小まめな声かけと嗜好品にて確保できるよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、洗浄が不十分な方は介助している。月に2度の歯科往診にて口腔ケアの指導を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンや習慣を把握し、個人にあった支援を行っている。また、不必要なオムツを減らし、残存機能を活かした支援を行っている	水分摂取量や排泄、排便周期は「排泄記録表」で把握している。時間や入居者のそれぞれ様子をみて、トイレ誘導を行っている。夜間のみ転倒防止の為ポータブルトイレを使用している方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限り水分摂取量を確保し、体を動かす機会を作り、予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	スタッフの配置上、夜間入浴は実施していない。入浴剤等で楽しめる工夫はしている	木曜日が入浴休日で、他の日は、午前と午後予定が空いていれば自由に入浴が出来る。入浴剤の色や香りを楽しみ、ゆったりと湯船に浸かる。入浴を拒む方は、日時を替えたり職員を変更して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の活動量や年齢等を考慮し、傾眠が見られるときは休んでもらったり、夜間帯眠れなかった場合は日中休んでもらうなど状況に合わせて対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を個人記録に挟み、いつでも確認できるようにしている。服薬の変更がある場合は薬剤師、医師からアドバイス頂いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業、花植え、野菜作り等 趣味や得意なことをしていただき、日々の生活が楽しく過ごせるように支援している		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、日常的には行えず、車を使い3密が避けられる公園等に出かける事がある。近隣の散歩や個別での買い物は行っている	多賀城のあやめ園へ行き、休憩時におやつを食べて来たり、せんだい農業園芸センター、アクアイグニスヘッドライブに行っている。ホーム庭に職員と一緒に植えた水仙の花やゴーヤ等の夏野菜の世話をする等、戸外で過ごせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい為、ホームにて管理しているが、自分の財布をもっている方もいる。買い物時はできるかぎりご自身で払ってもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけて話してもらう。また、月に1度ホームからご家族へ手紙を出している希望がある方には手紙の同封も可能としている		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレはわかりやすいように表示している。また、過ごしやすいようエアコンで室温を調整している。又、廊下やホールに絵画をかけたたり、季節に合わせた飾り付けにも工夫している	ホールの壁には、手作りの大きなカレンダーや入居者が書いた習字の作品が掛軸風に飾られている。廊下には入居者の笑顔の写真が貼ってある。南側の大きな掃き出し窓から日差しが入り暖かく、皆で体操や歌をうたい、居心地良く過ごせる場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースは限られるがお部屋の前には自分の花壇を作りや食席を近くしたり		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団やタンス、テレビ台、仏壇など使い慣れた物は持ち込んで頂いている。	居室にエアコンやベッド、クローゼット、洗面台が備えてある。家族の写真やぬり絵等の自分の作品を飾っている。居室の掃除を職員と一緒にしたり、編み物をしたり、昼寝をしたり思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの廊下やトイレには手すりが付いている。夜間は足元灯や衝撃吸収できるマット等にて転倒防止や最小限の怪我すむよう配慮している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300022		
法人名	株式会社 ウェルフェアフォレスト		
事業所名	グループホームすだちの里	ユニット名	2丁目
所在地	宮城県仙台市若林区沖野7丁目6-30		
自己評価作成日	令和 5年 8月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

クラスターを経験しているため、柔軟な対応は難しいのが現状だが、昨年同様、感染症予防に努めながら、出来る限りご家族の要望に沿えるよう、随時、本部と会議を行い、対応している。5月より感染レベルが引き下げられた事により、これまで 外出や地域との交流ができない中での、閉塞感を感じないよう出前や散歩、3密を避けた外出、ドライブ、カラオケなど、インドアでの楽しみに力を入れています。又、できることの継続を目標に毎日名前を書くことに取り組んでいます。名前を書ける姿をご家族が見られた際、大変喜んでました。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、陸上自衛隊霞日飛行場より南方の、市営バス停「沖野」から徒歩1分の閑静な住宅地にある。法人の介護タクシーや居宅介護支援事業所、訪問看護ステーションが同敷地内にある。地域包括支援センターが月1回開催している「ほのぼの食堂」に、法人の施設の厨房と部屋を提供し地域に貢献している。協力医や訪問看護師との医療連携が整っており、24時間オンコール体制は、入居者や家族の安心に繋がっている。入居者は洗濯物たたみや新聞たたみ、好きな編み物や漢字ドリルをして自分らしい時間を過ごしている。家庭的な雰囲気であつ笑顔が絶えない生活が送れるように支援している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年 10月 23日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) ○	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) ○
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 すだちの里)「ユニット名 2丁目 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1丁目「いつも笑顔で清潔に、目配り、気配り、思いやりを持って接する。・外の空気を沢山吸い季節を感じてもらう」2丁目「季節ごとにレク、食事を楽しみながら笑顔で過ごせる」 毎月の会議で昭和し取り組んでいる	職員目標やユニット毎の理念は、各事務所に掲示している。年度末の職員会議で見直し、次年度のユニット理念を決めている。職員自ら笑顔で接する事で、入居者にも笑顔が増え穏やかに過ごしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過で地域との繋がりは控えていた。施設の一角をほのぼのの食堂として開放し地域に貢献している	町内会に加入し、回覧板で小学校の行事や公民館の情報、町内会の祭り中止等の情報を得ている。地域住民と散歩の途中で挨拶を交わしている。家族や地域の方から野菜の差し入れがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターに定期的に伺い、電話での相談は可能と伝え、案内している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、書面での報告と電話での要望の聞き取りにしている。	2ヵ月毎の書面会議が、6月から通常開催となった。メンバーは地域包括職員や町内会長(民生委員兼務)、婦人防火クラブ員、家族である。入居者の様子や行事を報告し、コロナ対応の労いの言葉を貰った。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターに定期的に伺い、電話での相談は可能と伝え、案内している。	区役所に、介護保険の更新手続きや区分変更で連絡を取った。市から「スキルアップセミナー」の連絡があった。地域包括職員から空き室の問い合わせがあり、入居に至っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い身体拘束、虐待のないケアに努めている。センサーの使用について議論があり仙台市に問い合わせ具体的な解釈と対応について相談した。	「身体拘束廃止・権利擁護委員会」を毎月の全体会議で開催している。歩行不安定の方へのセンサーの使用は、安全性を重視する為と家族に了承を得ている。入居者の安全・安心を考慮し、拘束にならないケアに取り組んでいる。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議毎に、虐待、権利擁護の話し合いを行っている。又、注意喚起も行き、未然に防止できるよう努めている。	声掛けの成功例や失敗例を会議の中で話し合っている。笑顔で接し、強い口調にならないよう心掛け、虐待の無いケアに努めている。管理者は、職員の体調や悩み事等、常に相談出来るような雰囲気作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修委員会を中心に勉強会を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する際には重要事項説明書、契約書の内容をしっかりと説明している。又、変更があった場合はその都度書面にてお知らせし、必要時には同意書を得ている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍での外出が難しい中、個別での対応にて散歩、ドライブを行った。	来訪時や電話対応時に聞いている。毎月担当職員が、写真や様子を手紙にして送付している。年1回実施している「家族アンケート」に、「面会できない時期に貰う手紙は嬉しい」等の感謝の言葉が多くあった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の個別面談にて意見を聞いている。法人全体の会議にて報告し共有している。	日々話しやすい環境であり、職員会議等でも意見や要望を聞いている。入居者の嚙下状況に適した刻み食等の食事形態変更や電化製品の修理、買い換えに対応した。資格取得費用の援助がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人のスキルアップや実績等を考慮し可能な限り給与条件に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外への研修や法人内研修の参加、促しをしている		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等まだコロナが終息していないが、交流の機会を増やしていく。	拘縮がある方のクッションの当て方やスムーズな体位交換について、訪問看護師に相談し助言を貰った。調剤薬局の薬剤師に、飲みにくい薬の粉碎等を相談し、入居者の服薬に役立てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、入居後1ヶ月毎にそれぞれ要望を聞き取り要望にそったケアを実践している。入居間もない時期は精神面の安定に留意している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にできる限り要望等を聞き取るようにしている。また、入居1か月後にもホームの生活にて要望等の聞き取りを行い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族からの要望や入居後必要と判断される支援については、外部サービスを含め随時検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場であるため、助け合ったり、支えあったりしている。また、共感したり教えたり教わったりし関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限が解除したことで面会も増えてきている。面会以外にもこまめに様子を伝え同じ目線で話し合えるよう気をつけている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	オンライン面会の継続と、面会制限の中で意思疎通ができる環境を整備した。今年4月より面会制限を解除した。	入居者が散歩で行く清涼寺が馴染みの場所である。ユニット間のドアを開放し、入居者が自由に行き来し、お茶を飲んだり、おしゃべりを楽しんでいる。遠方から来訪する娘や孫との関係が継続出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	協力し合っの家事や草むしり、レクにて交流ができています。又、外出等を通じ関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は、ご家族から様子を伺ったり、随時相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	役に立ちたいという入居者の気持ちを大切に、なるべく制限のない環境を整えている。	入居時に家族が提出した「くらしの情報シート」や、職員が日々の会話で聞いた事をケース記録に書き込み共有している。入浴後にビールを飲む事を楽しみにしている方がいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴の聞き取りや書面での情報収集を行っている。また、入居後も暮らしの情報として家族から書面で頂き把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録とは別に 不安定な入居者には24時間シートを活用し気持ちの変動を把握し必要時には支援を行う。また、個々の有する能力を記録し情報共有している		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から意向を聞き取り、また、医療関係者から指示等、気づきシートを踏まえカンファレンスで検討・作成している。状態に変化があった場合はアセスメントしなおし、ケアプランの変更を行う	毎月モニタリングを行い、担当職員から状況の変化や気が付いた事を聞きケアに活かしている。介護計画は、6ヵ月毎に計画作成担当者が作成している。家族や本人の要望で訪問マッサージがプランに取り入れられた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ったケアの実践内容や実践後の本人の様子、いつもと違った様子等を記録している。スタッフは目を通し情報共有している。又、疑問や気づいた点等があった場合は気づきシートへ記入しケアの改善に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取り介護や訪問マッサージ、訪問利用や福祉用具の購入等、状況に応じた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出制限で参加できていない。密にならないように外出などに出かけている。町内会や近所の市民センターで催しがあるか情報は収集している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者に看取り可能な体制をとっている。	全員が協力医の月2回の訪問診療を受けている。夜間や緊急時は協力医と連絡を取り、24時間体制である。訪問看護師が週1回健康管理に来訪する。訪問歯科医は月1回来訪し、治療や口腔ケアを行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師にその都度症状の報告をし指示を受けている。又、今年からは医療連携を図り、毎週木曜日看護師が全入居者の健康管理を職員からの相談も受けている。往診前や往診時にも情報交換をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーにて医療機関へ伝えていく。入院時の様子についても面会等で情報交換を行うようにしている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全入居者及びご家族には、ホームでの対応を説明し、終末期における要望を確認している。状況に応じ、ご家族、主治医、と話し合いを行っている	「重度化及び看取りの指針」を明文化し、入居時に説明し同意を得ている。状況の変化に応じて家族や医師、職員で話し合い意思確認を行っている。年1回看取り研修を行っている。看取り時に居室に家族用ソファを用意し、寄り添う時間の支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルの整備と研修での救命講習参加を今後とも行っていく		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練の実施。今年は避難先を地域に想定しています。地域での避難訓練がある時には参加予定	夜間想定を含む避難訓練を年2回行った。災害時の役割分担が決まっている。備蓄係は備蓄品の整備や定期点検等である。次回推進会議時に避難訓練を行い、メンバーに見守りをお願いする予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報細かく聞き取り配慮している。フロアでの食席にも配慮し孤立しないよう努めている。聞かれたくない会話は場所を変えて話すようにしている。トイレにも過度に付き過ぎないように配慮している。	入居者と同じ目線で接し、不愉快にさせない言葉かけを意識している。失敗があった時は、羞恥心に配慮し、居室やトイレに誘導している。居室に入る時は、ノックや声掛けをしてから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるよう、ご本人に尋ねるようにしている。また、言葉以外の表情や行動からも思いをくみ取れるように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り希望に添える様工夫している。また、無理強いせず本人のペースを大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択が可能な方にはご自身で選んでもらう。難しいかたは、そのひとらしい身だしなみができる様支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状況を見ながら食材切や盛り付け、下膳や食器拭き等個人の能力に合わせて分担して行っている。使い慣れた食器を使ったり、お弁当ではメニューから選んでもらう。	献立と食材は配食業者に頼んでいる。行事食にちらし寿司やにぎり寿司を食べた。皆で餃子やホットケーキを作る時もある。自分が食べたい物をテイクアウトする時がある。食事は職員も一緒に、和やかな雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは栄養士が立てている。また、摂取能力に応じて刻みや、お粥、トロミ付きなどで対応している。水分のが少ない方は小まめな声かけと嗜好品にて確保できるよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、洗浄が不十分な方は介助している。月に2度の歯科往診にて口腔ケアの指導を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンや習慣を把握し、個人にあった支援を行っている。また、不必要なオムツを減らし、残存機能を活かした支援を行っている	水分摂取量や排泄、排便周期は「排泄記録表」で把握している。時間や入居者のそれぞれ様子をみて、トイレ誘導を行っている。夜間のみ転倒防止の為ポータブルトイレを使用している方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限り水分摂取量を確保し、体を動かす機会を作り、予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	スタッフの配置上、夜間入浴は実施していない。入浴剤等で楽しめる工夫はしている	木曜日が入浴休日で、他の日は、午前と午後予定が空いていれば自由に入浴が出来る。入浴剤の色や香りを楽しみ、ゆったりと湯船に浸かる。入浴を拒む方は、日時を替えたり職員を変更して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の活動量や年齢等を考慮し、傾眠が見られるときは休んでもらったり、夜間帯眠れなかった場合は日中休んでもらうなど状況に合わせて対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を個人記録に挟み、いつでも確認できるようにしている。服薬の変更がある場合は薬剤師、医師からアドバイス頂いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業、花植え、野菜作り等 趣味や得意なことをしていただき、日々の生活が楽しく過ごせるように支援している		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、日常的には行えず、車を使い3密が避けられる公園等に出かける事がある。近隣の散歩や個別での買い物は行っている	多賀城のあやめ園へ行き、休憩時におやつを食べて来たり、せんだい農業園芸センター、アクアイグニスヘッドライブに行っている。ホーム庭に職員と一緒に植えた水仙の花やゴーヤ等の夏野菜の世話をする等、戸外で過ごせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい為、ホームにて管理しているが、自分の財布をもっている方もいる。買い物時はできるかぎりご自身で払ってもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけて話してもらう。また、月に1度ホームからご家族へ手紙を出している希望がある方には手紙の同封も可能としている		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレはわかりやすいように表示している。また、過ごしやすいようエアコンで室温を調整している。又、廊下やホールに絵画をかけたたり、季節に合わせた飾り付けにも工夫している	ホールの壁には、手作りの大きなカレンダーや入居者が書いた習字の作品が掛軸風に飾られている。廊下には入居者の笑顔の写真が貼ってある。南側の大きな掃き出し窓から日差しが入り暖かく、皆で体操や歌をうたい、居心地良く過ごせる場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースは限られるがお部屋の前には自分の花壇を作りや食席を近くしたり		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団やタンス、テレビ台、仏壇など使い慣れた物は持ち込んで頂いている。	居室にエアコンやベッド、クローゼット、洗面台が備えてある。家族の写真やぬり絵等の自分の作品を飾っている。居室の掃除を職員と一緒にしたり、編み物をしたり、昼寝をしたり思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの廊下やトイレには手すりが付いている。夜間は足元灯や衝撃吸収できるマット等にて転倒防止や最小限の怪我すむよう配慮している		